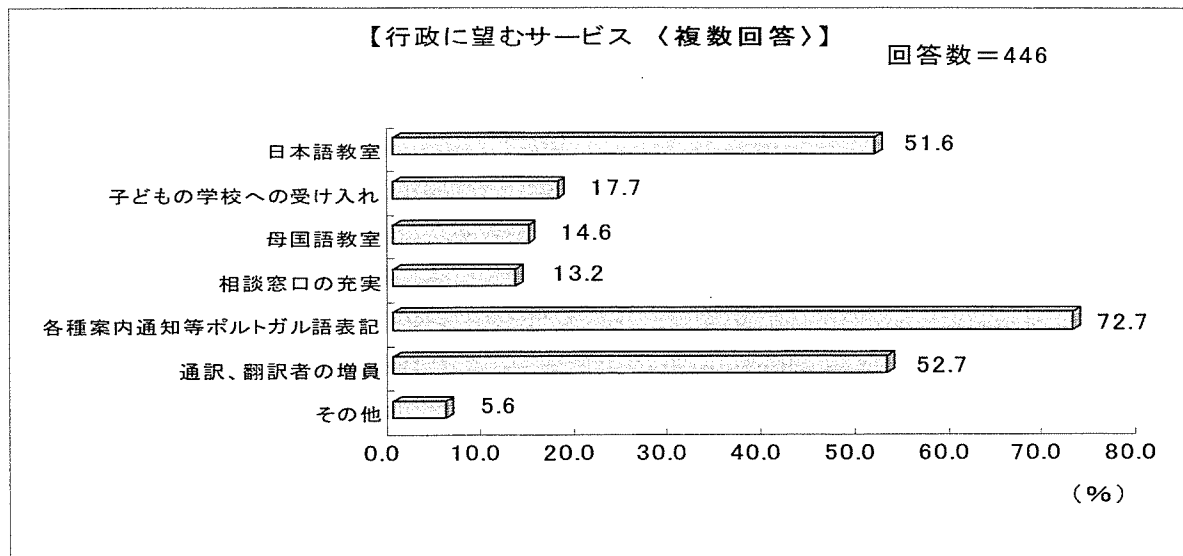
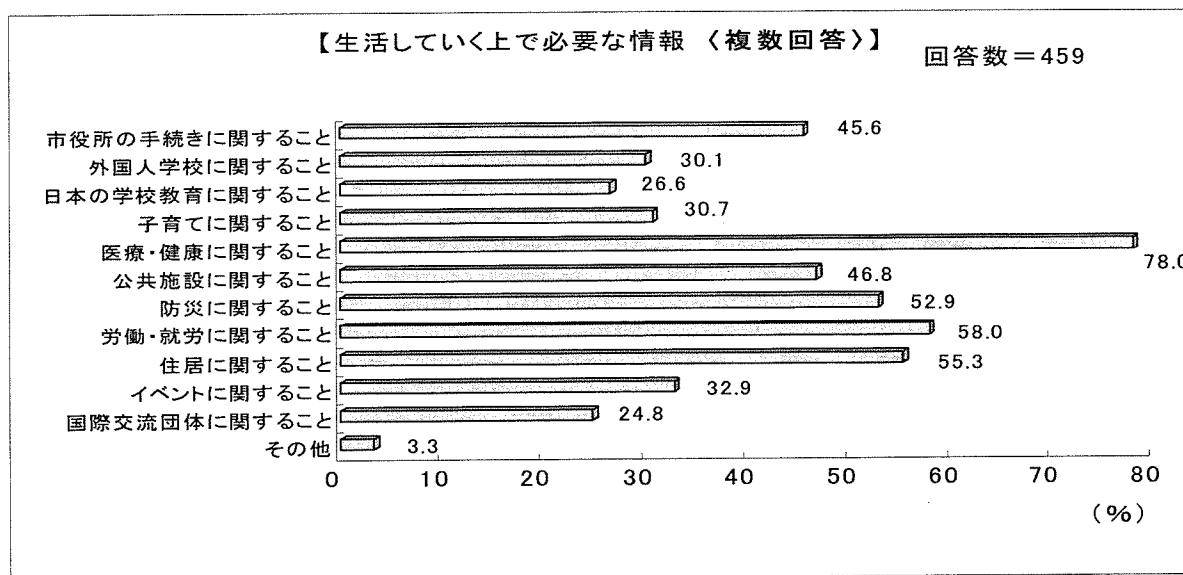


7-2. 磐田市に望む行政サービス（問 26）



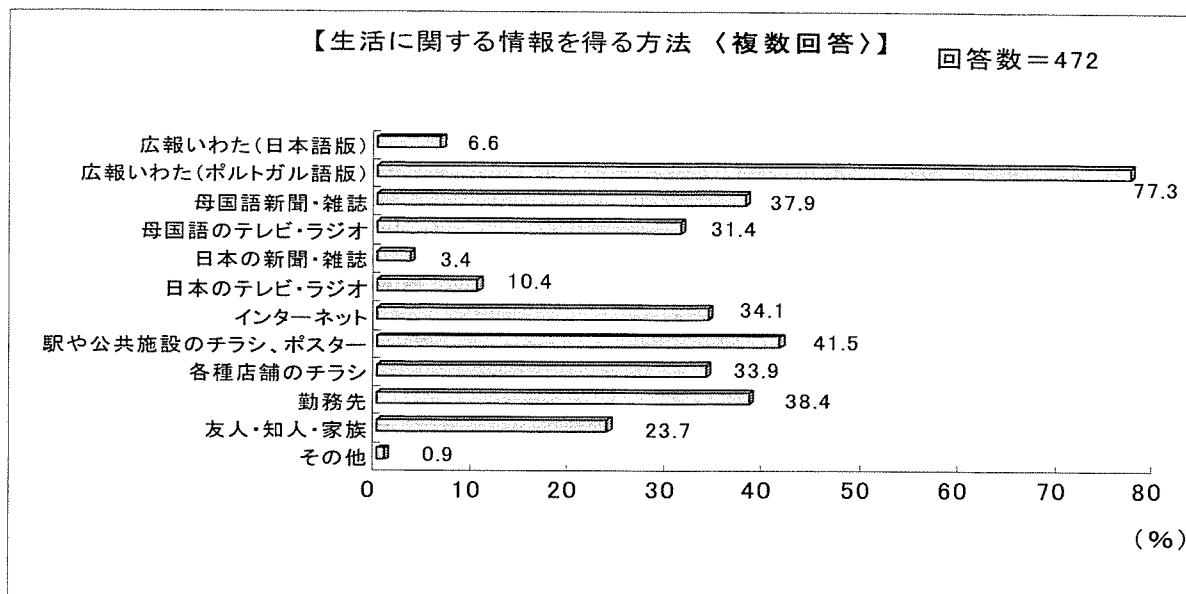
磐田市に望む行政サービスで最も多かったのは、各種案内通知等のポルトガル語表記の72.7%であった。続いて希望が多かったのは、日本語教室（51.6%）と通訳、翻訳者の増員（52.7%）であった。上位3回答をみても、言葉の壁がかなり大きいことがわかる。子どもの学校への受入が17.7%と4番目に高い回答となったが、磐田市でも待機児童は多く存在するため、学校ではなく、むしろ保育園への受け入れのことなのではないかと思われる。

7-3. 生活していく上で必要な情報（問 27）



医療・健康に関する事項が78.0%と、圧倒的に必要とされている情報である。続いて、労働・就労に関する事項（58.0%）、住居（55.3%）、防災（52.9%）という順番であった。市役所の手続き（45.6%）、公共施設（46.8%）に関するニーズも大きい。外国人学校や日本の学校教育、子育てに関する事項も約30%程度の回答を得ており、子どもに関する情報が無視できない大きさであることを示唆している。

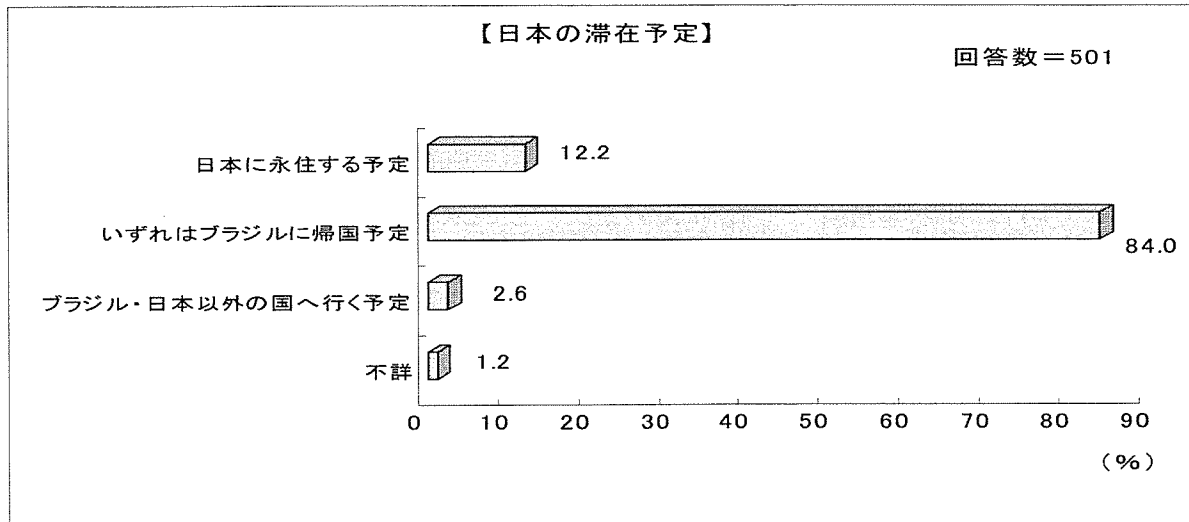
7-4. 生活に関する情報を得る方法（問 28）



生活に関する情報を得る方法としては、77.3%の者が、『広報いわた』（ポルトガル語版）が良いと回答した。『広報いわた』を知らないと回答したものが、問 25 で約 4 割存在したが、『広報いわた』を知っている者は、生活に関する情報を得る媒体として、広報いわたをふさわしいととらえているのだと思われる。他には、駅や公共施設のチラシ、ポスターの 41.5%、勤務先の 38.4%、母国語新聞・雑誌の 37.9%と続いた。インターネットも 34.1% との回答があり、同じ情報を幅広く、異なった媒体にのせることにより、情報を行き渡らせることも可能かと思われる。

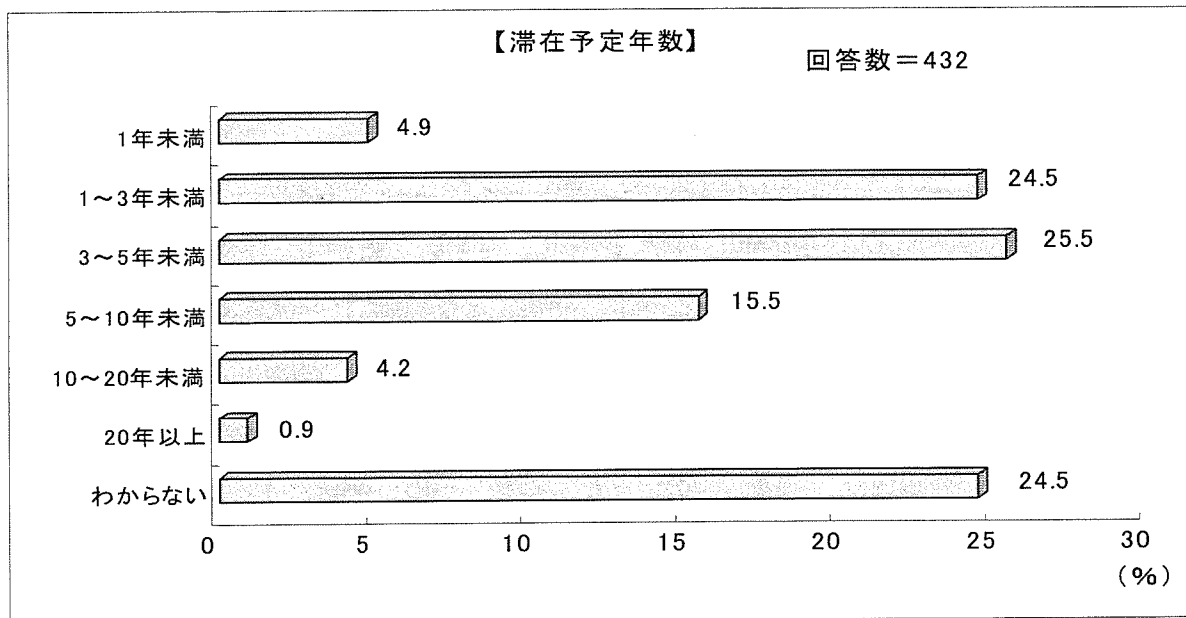
## 第8章 世帯主の今後の日本での滞在予定

### 8-1. 日本での滞在予定（問29）



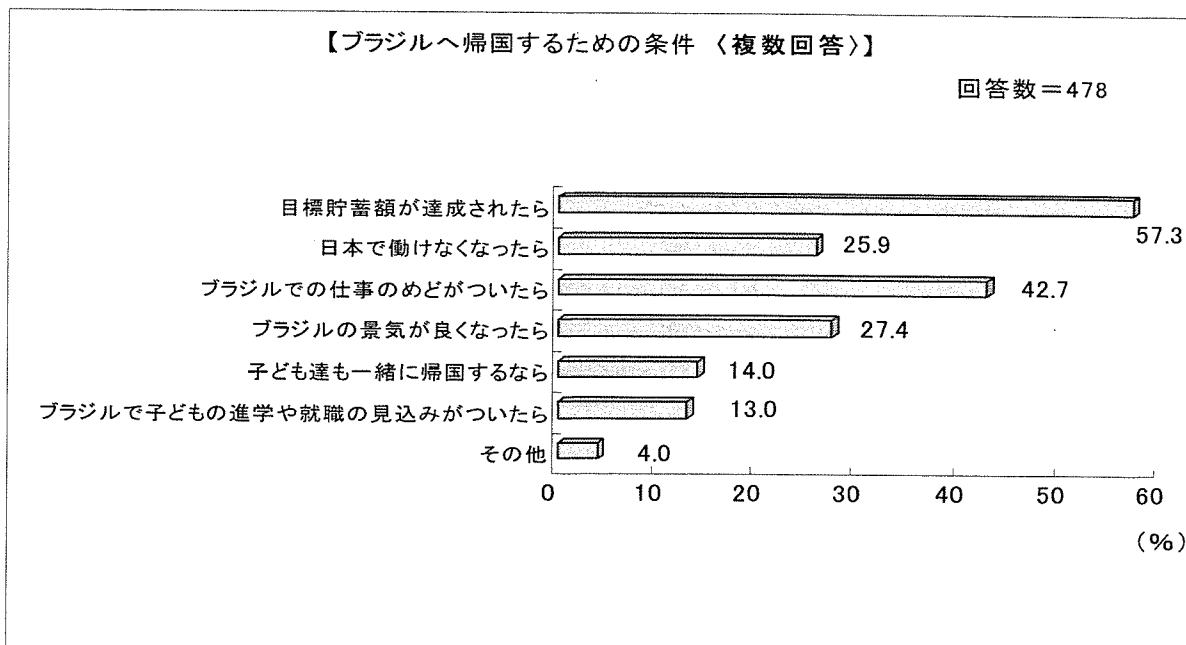
この設問は、世帯主を対象に聞いている。いずれブラジルに帰国する予定と回答したものが、84.0%と、大多数を占めた。一方、日本に永住する予定の者は、12.2%いる。

### 8-2. 日本での滞在予定年数（問30）



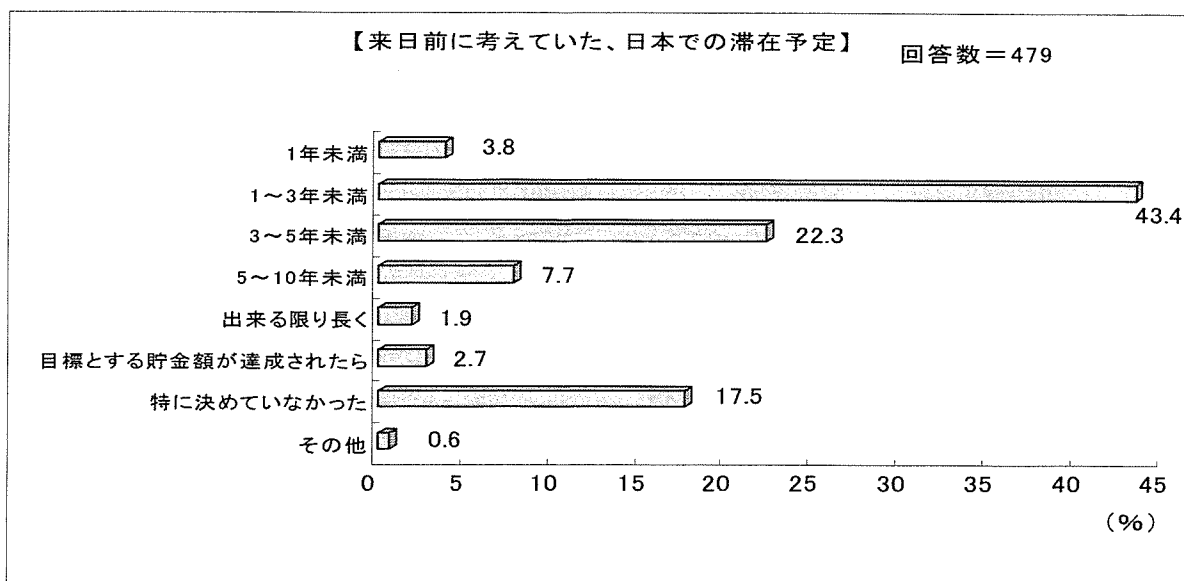
この設問は、「ブラジルに帰国予定」か「ブラジル・日本以外の国へ行く予定」と回答した者に聞いている。「3～5年未満」と「1～3年未満」、「わからない」が、ほぼ25%で並んでいる。いずれ帰国を考えている者は、長く滞在しても5年未満、またははっきりと年数を確定していない者が多い。

### 8-3. ブラジルへ帰国するための条件（問 31）



57.3%の者が、「目標貯金額が達成されたら帰国する」と回答した。続いて、42.7%が、「ブラジルでの仕事のめどがついたら帰国する」と回答した。3番目は、「ブラジルの景気が良くなったら」の27.4%で、ほぼ同程度（25.9%）が、「日本で働けなくなったら帰国する」と回答した。ブラジルへの帰国は、経済的なめどがたつことが、大きな理由の一つである。そのため、日本での滞在予定年数の見通しが立てにくいものと思われる。

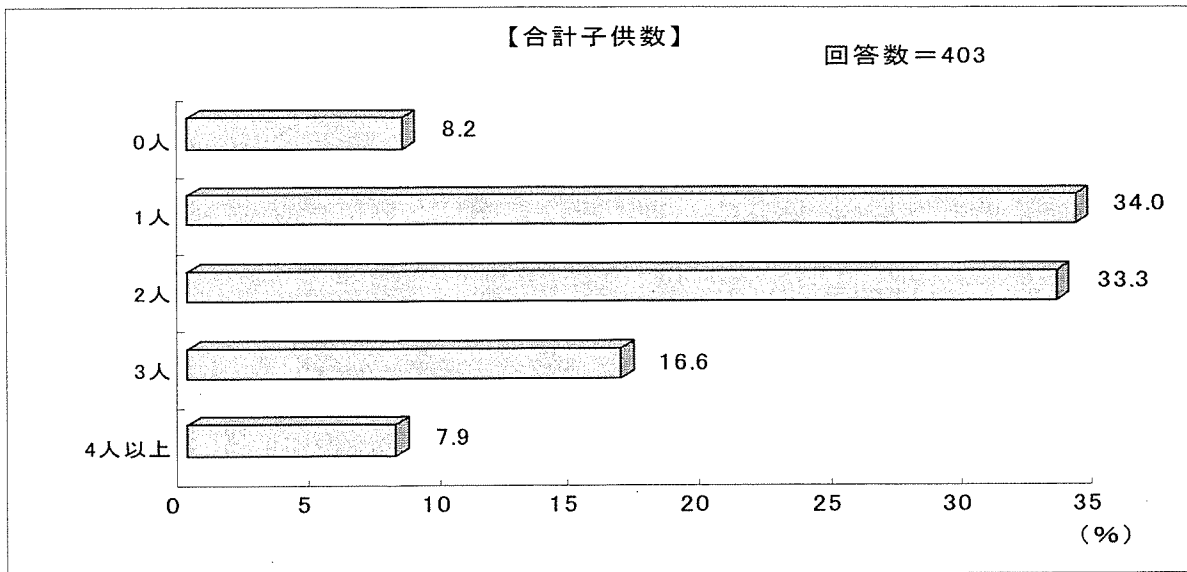
### 8-4. 来日前に考えていた日本での滞在予定（問 32）



来日前には、1年～3年未満の滞在を考えていた者が最も多く、43.4%を占めた。それに続くのが、3年～5年未満の22.3%である。特に決めていなかったと回答した者も17.5%を占めており、年数よりも目標貯蓄額の達成など、経済的な理由がやはり大きいのであろう。

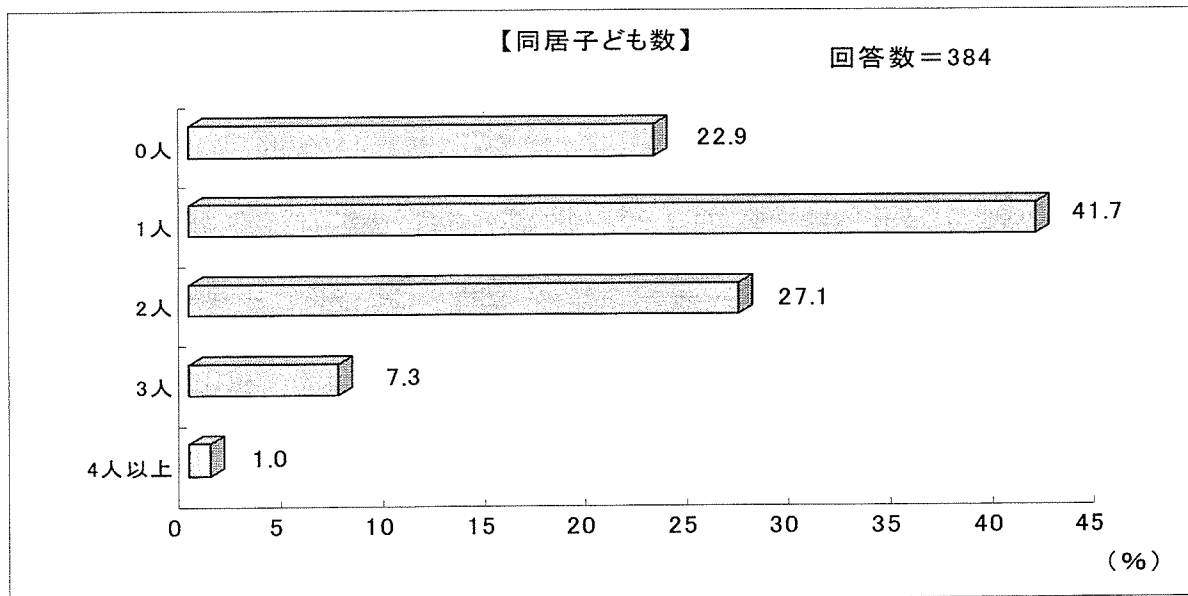
## 第9章 子どもの同居・通学状況

### 9-1. 合計子ども数 (問 33)



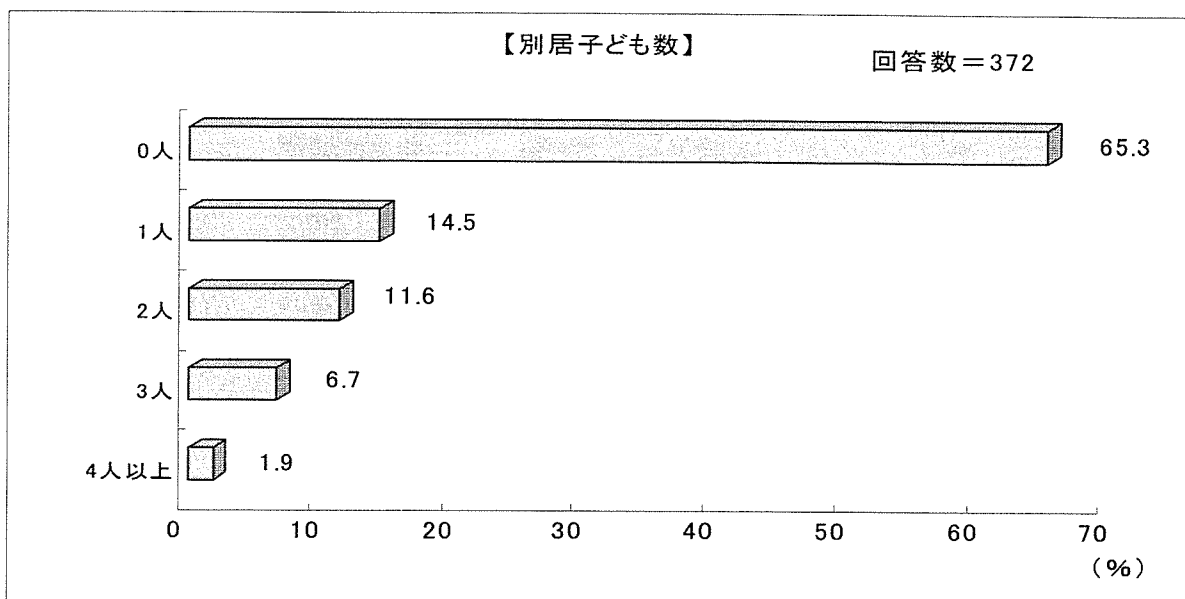
合計子ども数は、1人が最も多く、34.0%を占めた。続いて2人(33.3%)、3人(16.6%)、子ども無し(8.2%)、4人以上(7.9%)となっている。子ども数は、1人と2人を合わせて約7割に達する。子どもがいない者は1割に満たない。

### 9-2. 同居子ども数 (問 33)



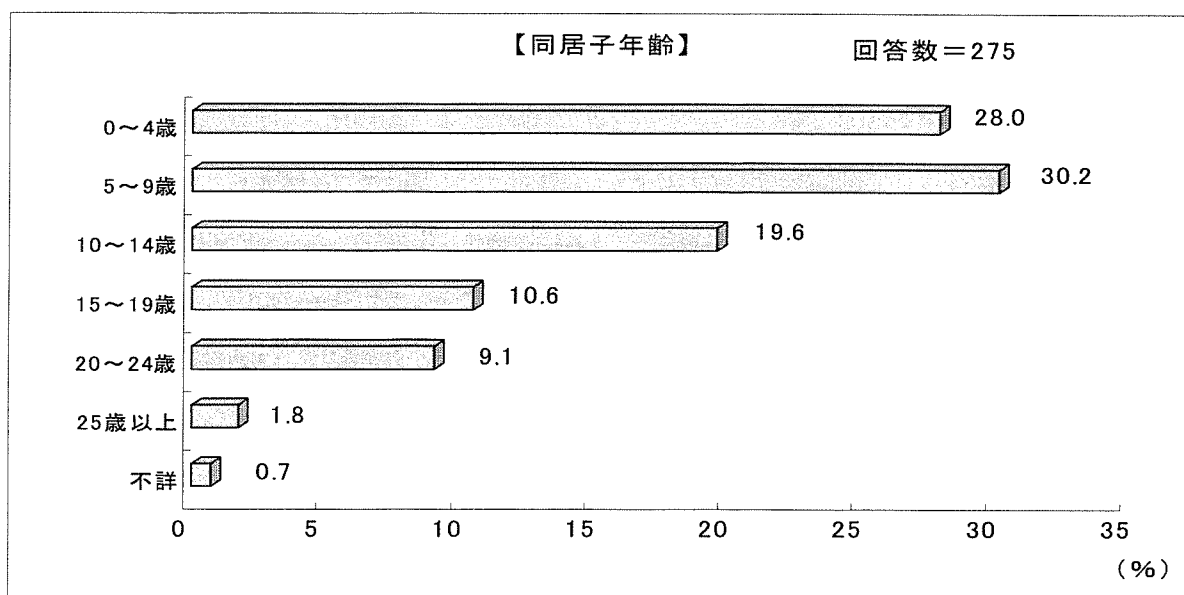
同居子ども数を見ると、1人が41.7%、2人が27.1%、そして同居子なしが22.9%となっている。子どもを1人もつれないで日本に働きに来た場合や、何人かいる子どものうち、1人だけを日本に同行するケースもあることが見受けられる。

### 9-3. 別居子ども数 (問 33)



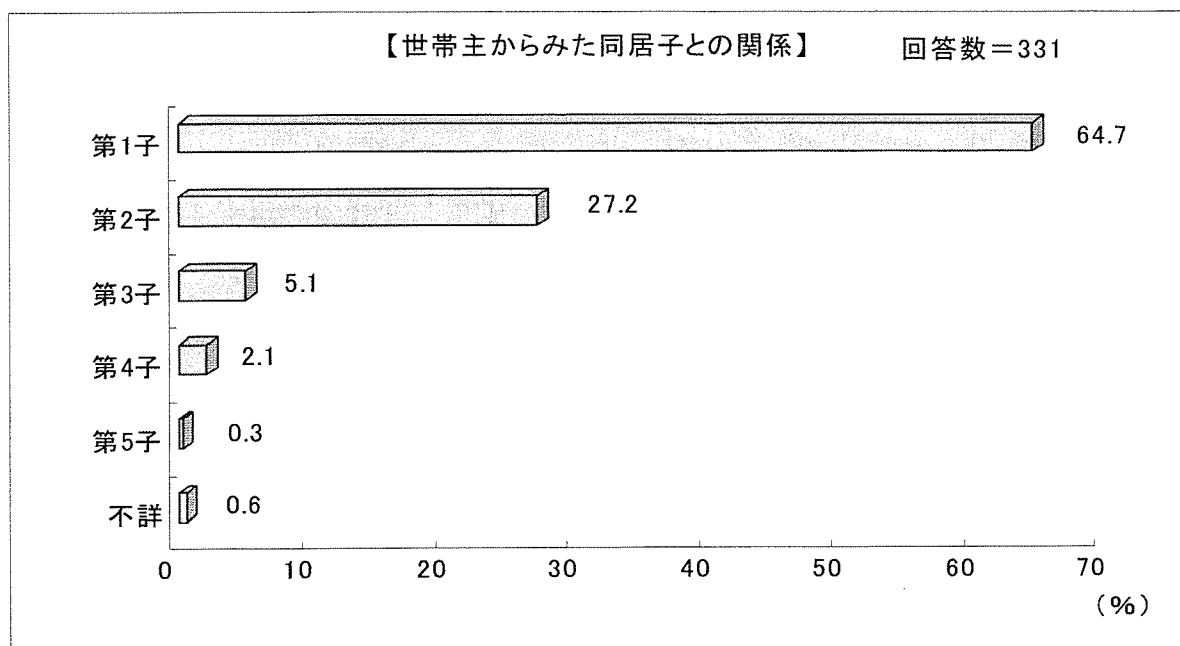
別居子ども数を見ると、「別居している子どもはいない」が 65.3%と一番多い。この中には子どものいない単身者や、まだ子どものいない夫婦が多く含まれているため、このような高い数値になったのであろう。つづいて、1人 (14.5%)、2人 (11.6%)、3人 (6.7%)、4人以上 (1.9%) の順になっている。

### 9-4. 同居子年齢 (問 34)



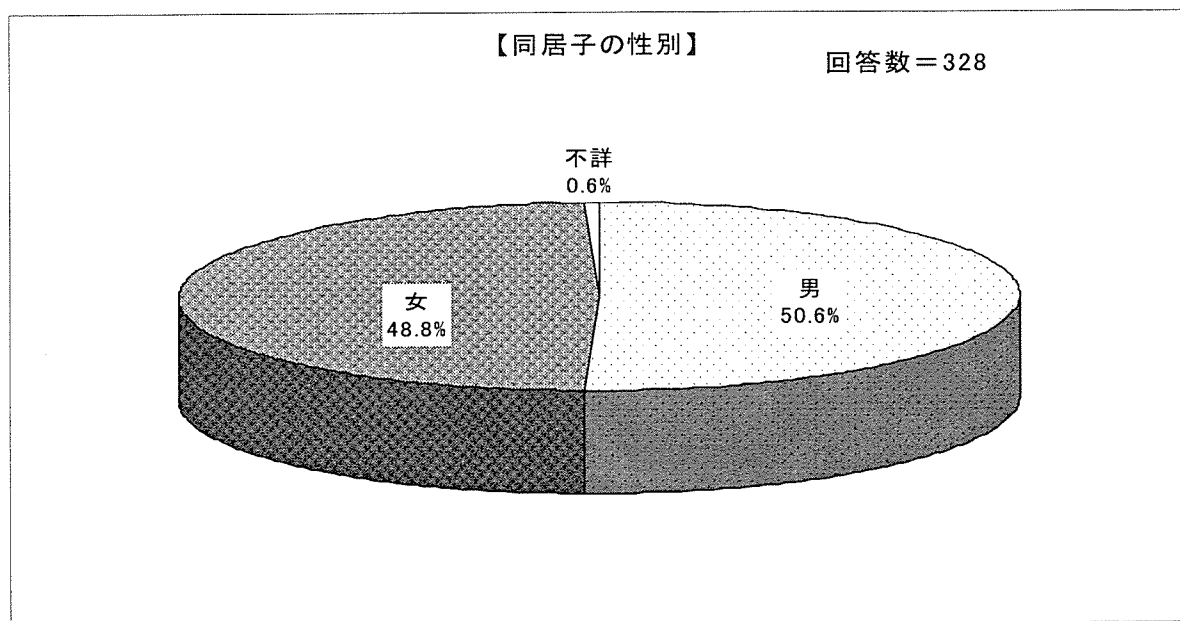
日本に来る親は若いケースが多いのであろう。同居子がいる場合、子どもの年齢はまだ小さいケースが圧倒的に多い。一番多いのは、子どもが5～9歳の場合で、30.2%、続いて0～4歳の28.0%である。すなわち、0～9歳の子どもの全体が58.2%を占めることになる。しかし、15～19歳、20～24歳の子どものそれぞれ1割近く同居している。

### 9-5. 世帯主からみた同居子との関係（問 34）



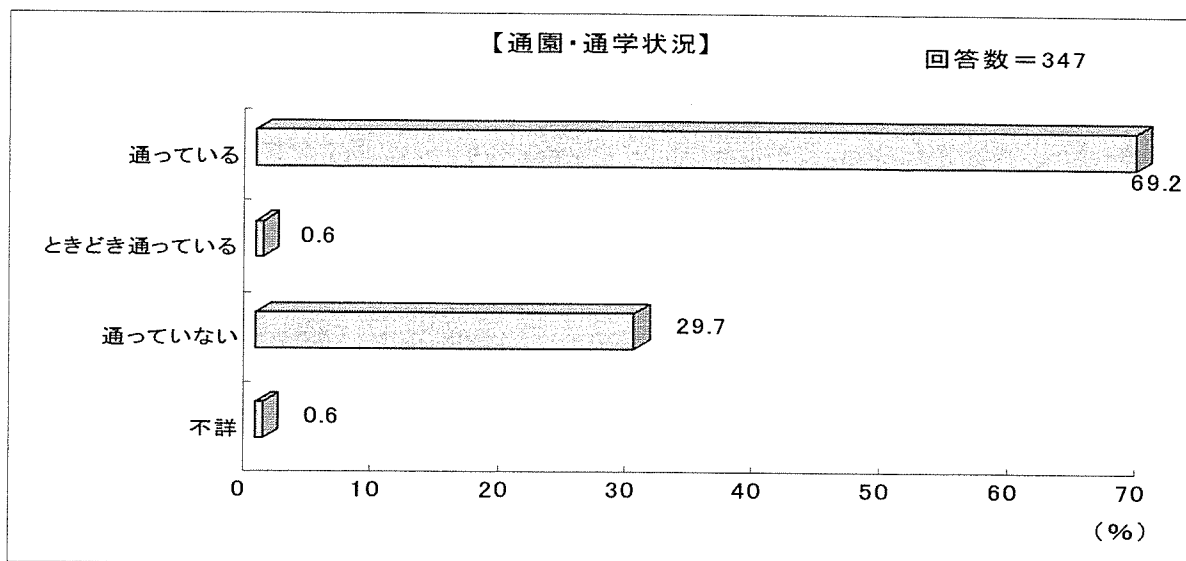
同居子は、第1子が多く、64.7%を占めている。次に多いのは第2子で、27.2%となっている。来日してから子どもが生まれたケースや、ブラジルから呼び寄せたケースなど様々であろうが、同居子の年齢がまだ小さいことを考え合わせると、比較的ライフコースの初期状況にある世帯が多い。

### 9-6. 同居子の性別（問 34）



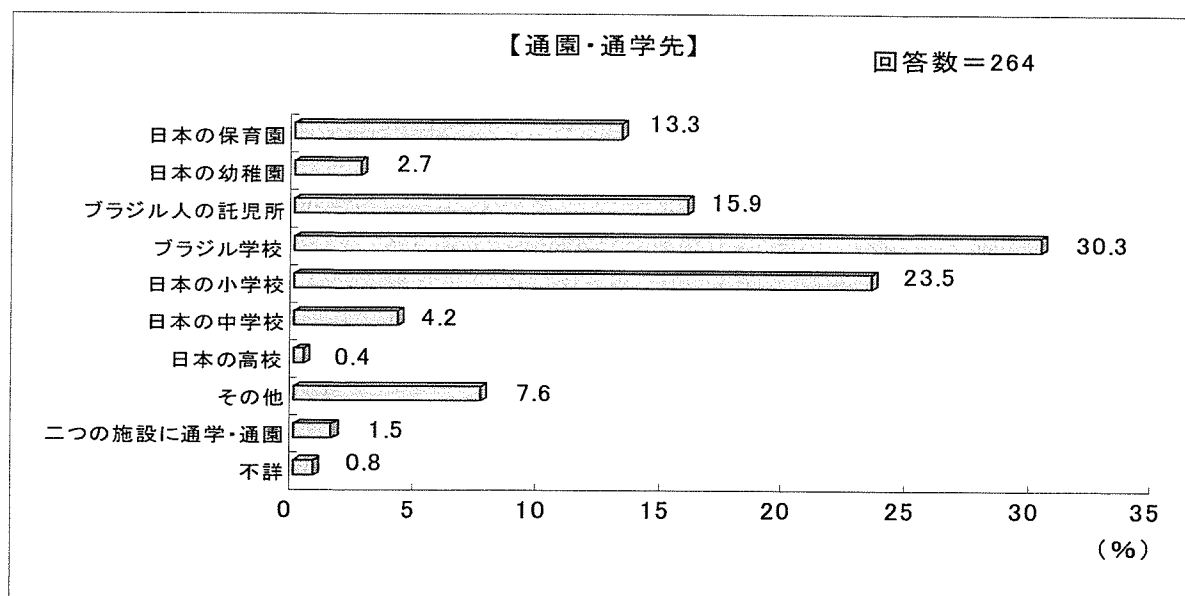
同居子の性別に特に大きな偏りは見られない。男の子が50.6%、女の子が48.8%を占めている。

9-7. 通園・通学状況（問 34）



保育所・幼稚園、又は学校に定期的に通っている子どもは、69.2%であった。通っていない子どもは、29.7%である。通っていない子どもの中には、乳幼児の場合や、または、学校を卒業・中退して働いている子どもも含まれていることが考えられる。

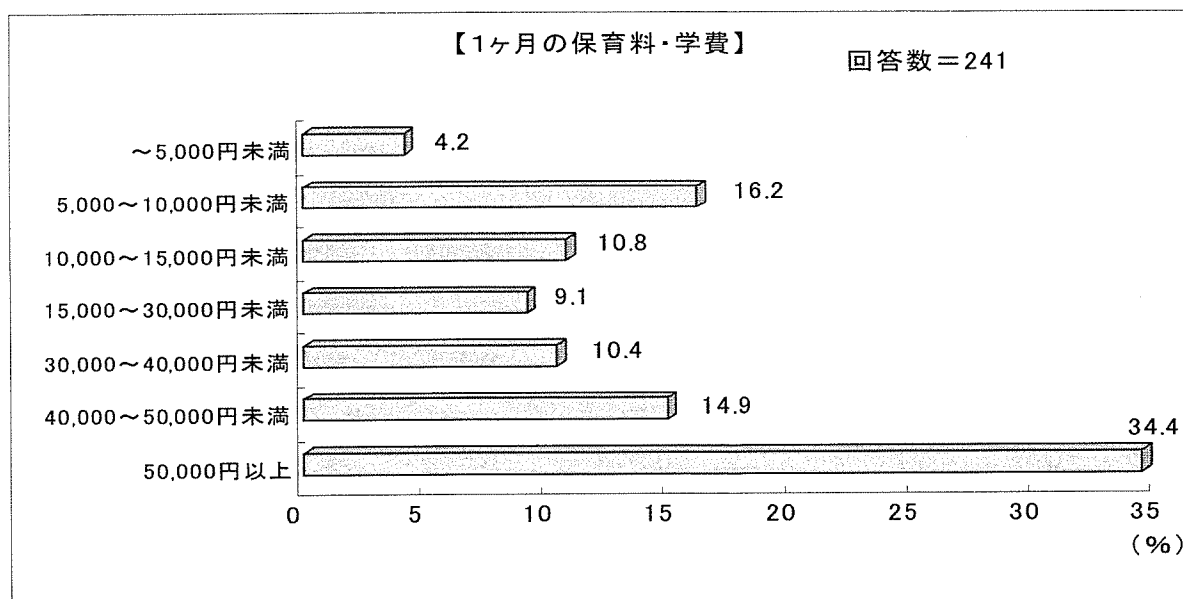
9-8. 通園・通学先（問 34）



子どもの通園・通学先は、ブラジル学校が最も多く 30.3%を占めた。ついで、日本の小学校（23.5%）、ブラジル人の託児所（15.9%）、日本の保育園（13.3%）の順番となっている。日本の小学校とブラジル人の託児所など、二つの施設に通園・通学している子どももいる。設問に設けた選択肢以外に、その他を選んだ回答者が 7.6%いるが、この中にも二つの施設に通学・通園している者も含まれる可能性がある。

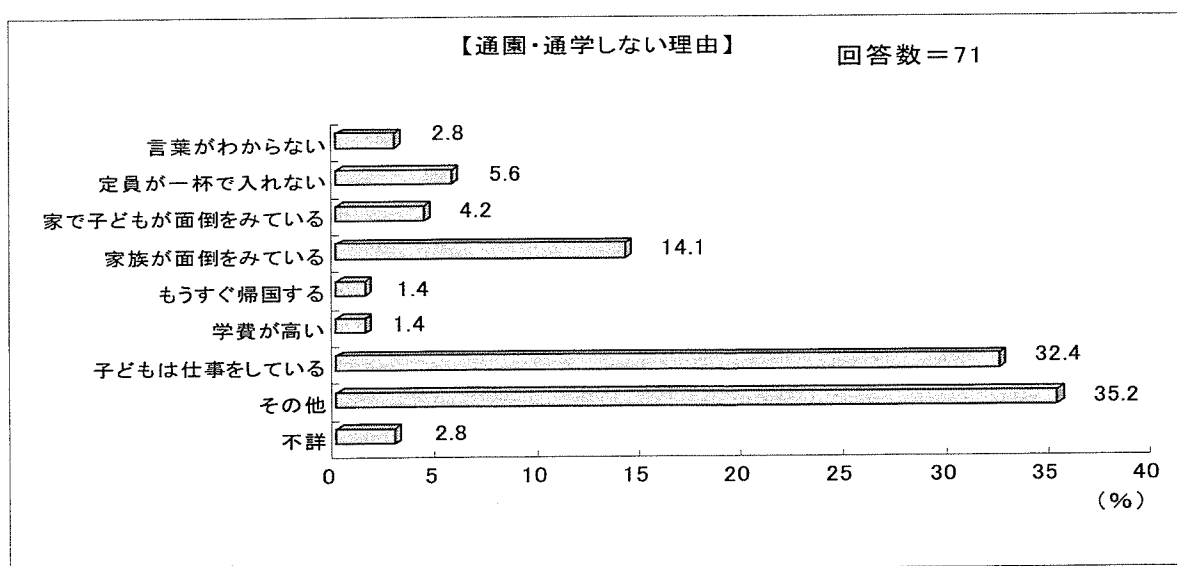


9-9. 1ヶ月の保育料・学費（問 34）



1ヶ月の保育料・学費には、50,000円以上かけている世帯が34.4%と最も高い割合を示した。ブラジル人学校は、通常学費が高いので、これはブラジル人学校に通学させている親が多いためであろう。続いて、5000円～10,000円未満の16.2%、3番目は、40,000円～50,000円未満の14.9%であった。ブラジル人世帯は、ブラジル学校やブラジル人託児所に子どもを通学させるケースが多いため、学費は家計の比較的大きな割合を占めていると考えられる。

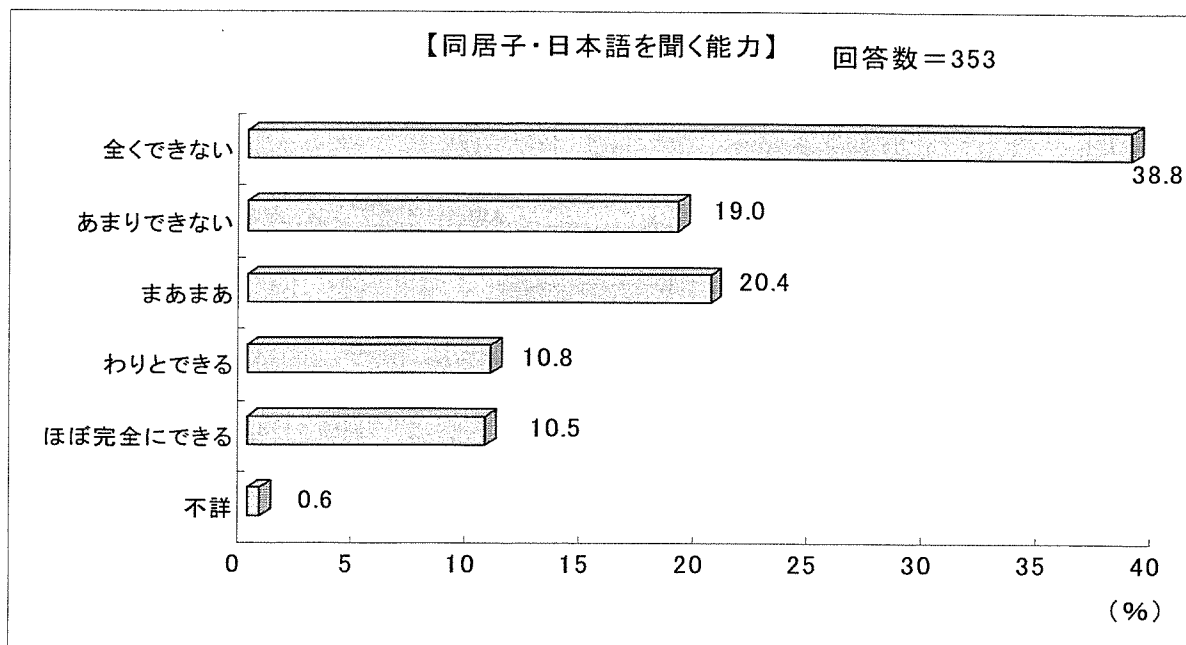
9-10. 通園・通学しない理由（問 34）



通園・通学しない理由で最も大きいのは、「その他」の35.2%であった。この設問では、捉えきれない理由があると思われるが、自由記述欄の分析を待つしかない。「その他」とほぼ同じ程度に多い理由は「子どもは仕事をしている」の32.4%であった。小さい子どもの場合、「家族が面倒を見ていない」場合が多く、14.1%を占める。「定員が一杯で入れない」というのは、日本の認可保育所の待機状態を指していると思われる。

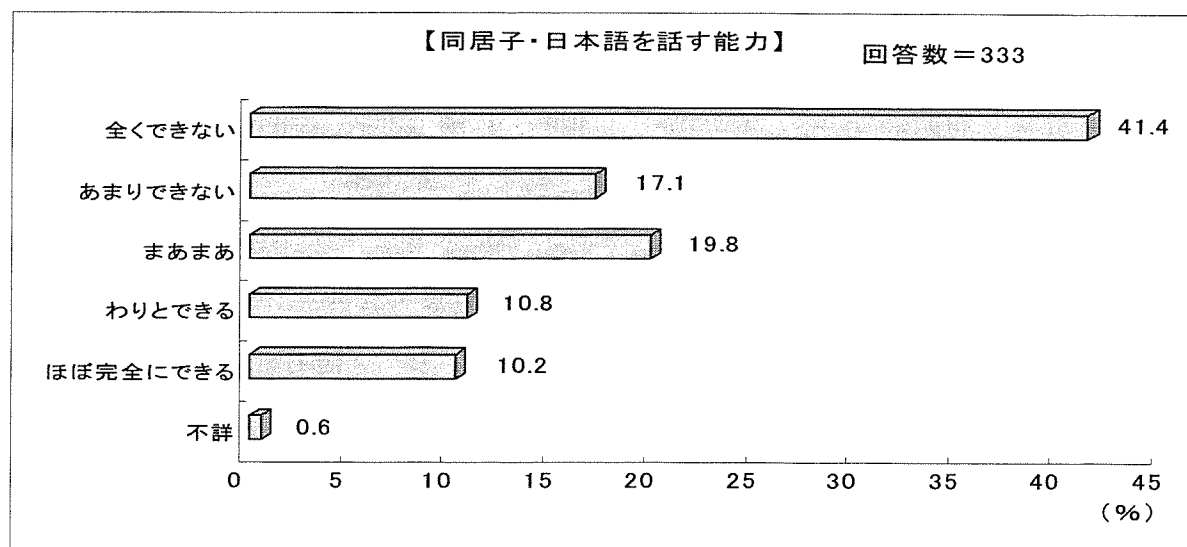
## 第 10 章 子どもの日本語・ポルトガル語の能力

### 10-1. 同居子・日本語を聞く能力 (問 35)



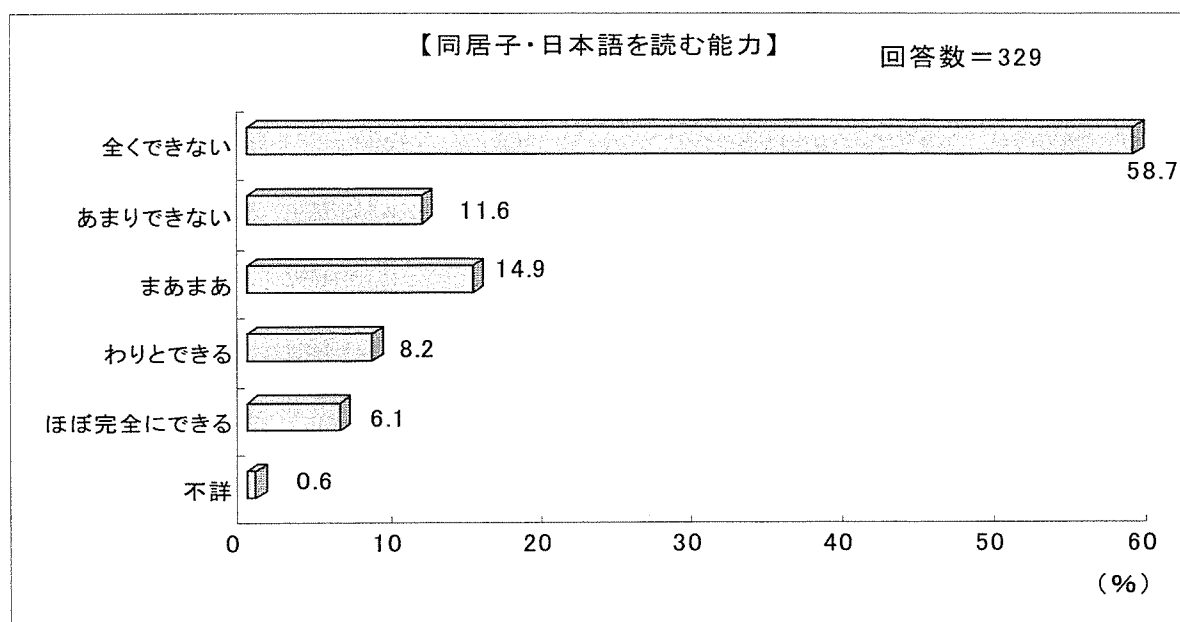
日本に滞在して日が浅い世帯が多いためか、同居子の日本語を聞く能力をみると、「全くできない」が38.8%と最大である。続いて、「まあまあ」(20.4%)、「あまりできない」(19.0%)であった。日本語を聞くことが「ほぼ完全にできる」と「わりとできる」を合わせて2割を占める。

### 10-2. 同居子・日本語を話す能力 (問 35)



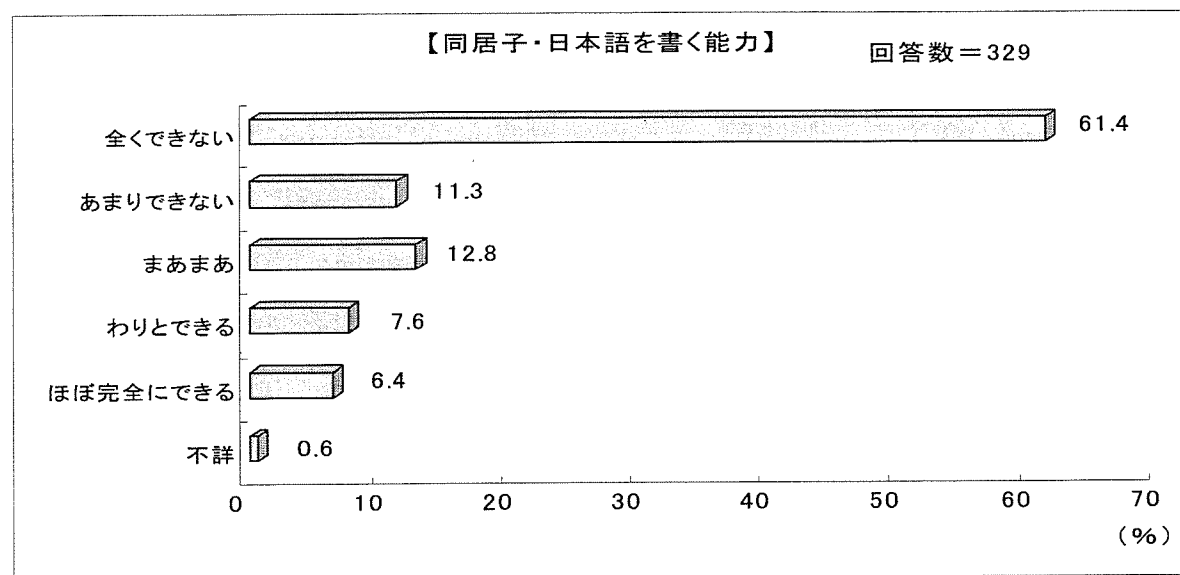
外国語は、話す方が聞くよりも難しい。日本語を話す能力の分布をみると、「全くできない」が41.4%で、「聞く能力」の38.8%を上回った。「全くできない」(41.4%)と「あまりできない」(17.1%)を合わせると58.5%に達する。その一方で、「わりとできる」(10.8%)、「ほぼ完全にできる」(10.2%)を合わせて21.0%となっており、日本語を聞く能力の分布とほぼ一致している。

### 10-3. 同居子・日本語を読む能力（問 35）



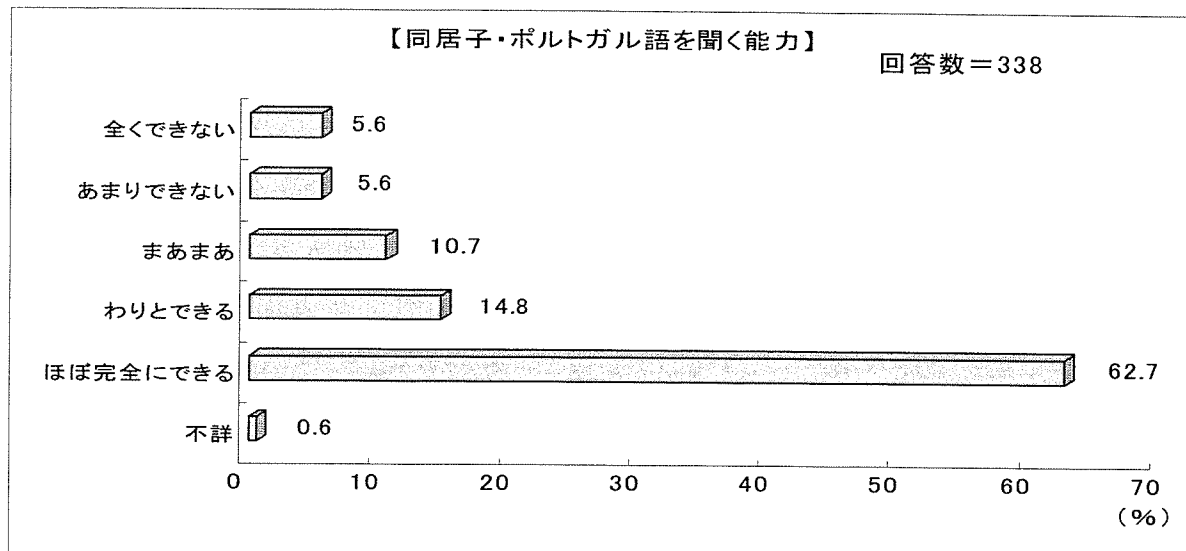
日本語を読む能力は、「聞く・話す」よりもさらに「全くできない」とする回答者が多くなり、58.7%を占める。「ほぼ完全にできる」(6.1%)、「わりとできる」(8.2%)は合わせて14.3%にしかならず、「聞く・話す」よりもぐっと低い。これには、ブラジルから来たばかりの子どもが多いということもあるだろうが、就学前の子どもも多いことも関係していると思われる。

### 10-4. 同居子・日本語を書く能力（問 35）



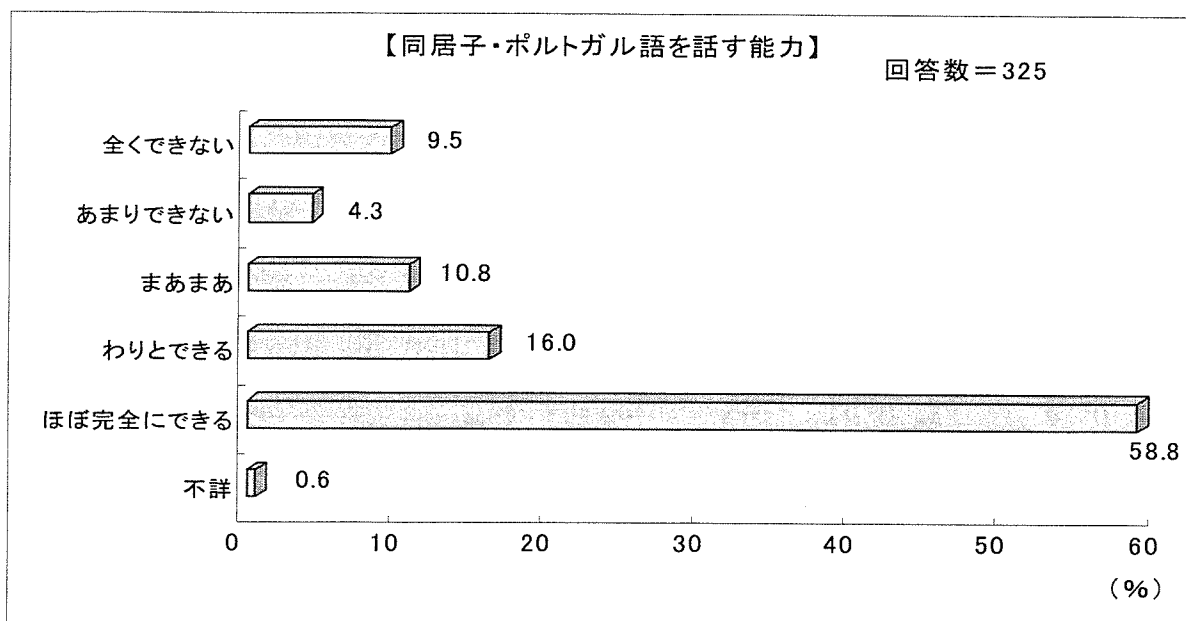
日本語を書く能力は、「聞く・話す・読む・書く」の中でも最も難しく、「全くできない」者が、6割を越えた。「わりとできる」(7.6%)、「ほぼ完全にできる」(6.4%)を合わせても14.0%にしかなっていない。年齢とクロスしていないので、確かなことは言えないが、小学校段階にある子どもで日本語の読み書きが不自由な者が多い場合、特別な配慮が必要であろう。

10-5. 同居子・ポルトガル語を聞く能力（問 36）



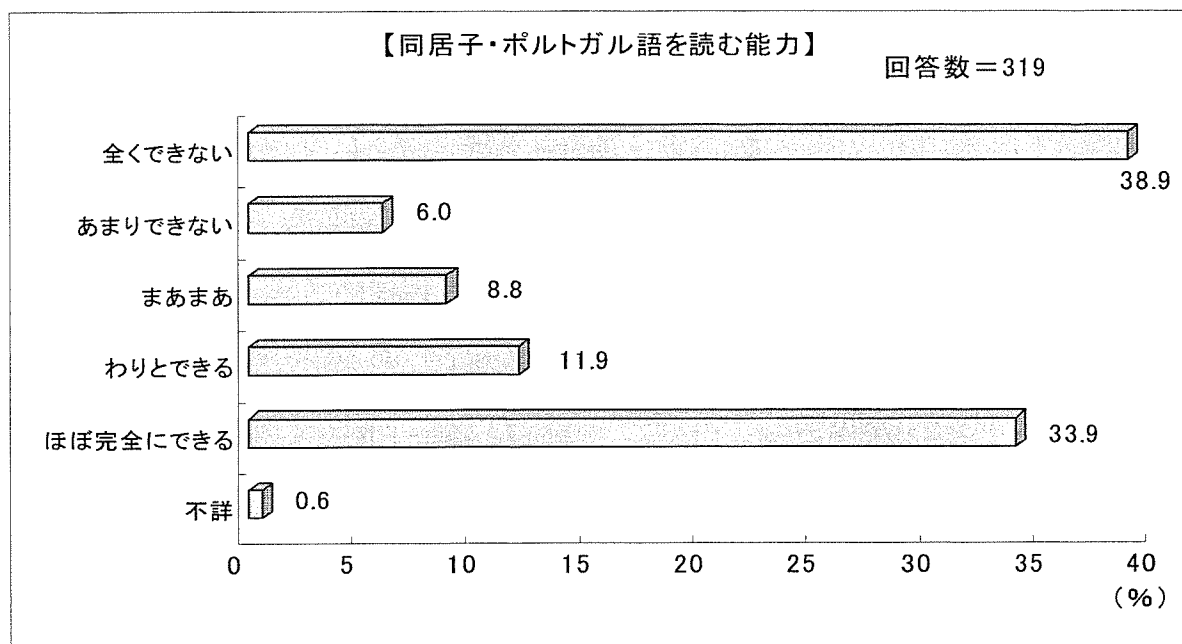
日本語能力とは反対に、ポルトガル語を聞く能力は「ほぼ完全にできる」が 62.7%と多勢を占めた。やはり、来日してそれほど日のたっていない世帯が多いことが反映されているのであろう。一方、ポルトガル語が「全くできない」(5.6%)、「あまりできない」(5.6%)が1割程度おり、日本で生まれ育ったブラジル人の子どもの存在がうかがわれる。子ども達の間でも、ブラジルから来たばかりの子どもと、日本で生まれたブラジル人の子どもの二極化が進んでいることが示唆される。

10-6. 同居子・ポルトガル語を話す能力（問 36）



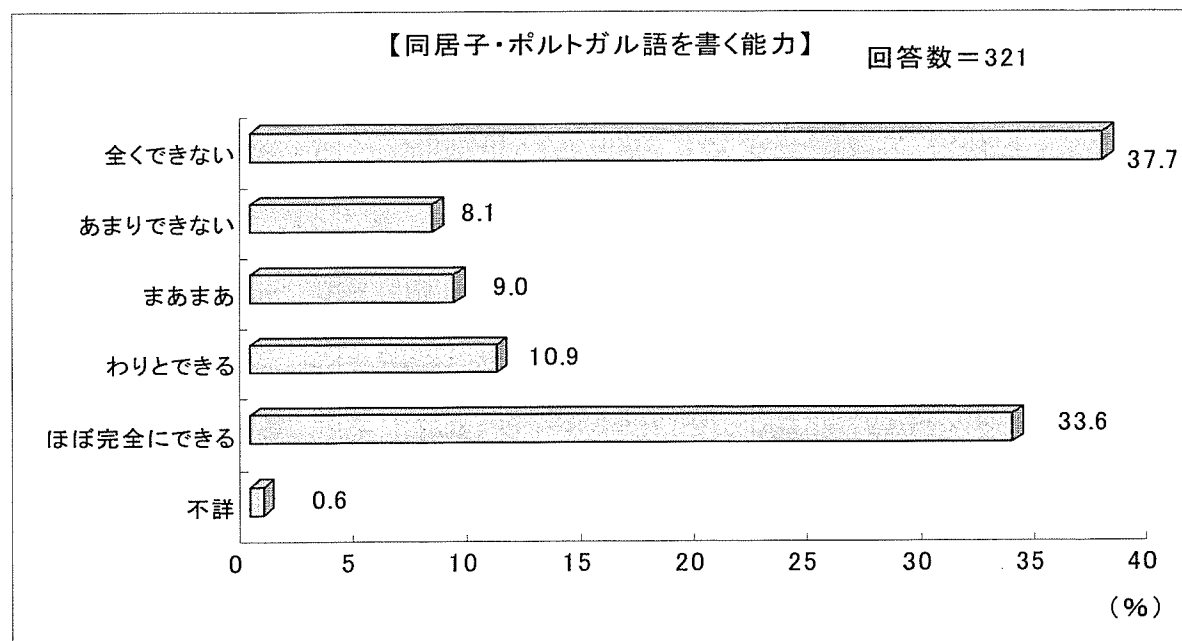
ポルトガル語を話す能力は、「ほぼ完全にできる」が 58.8%、続いて「わりとできる」の 16.0%である。その一方、話す能力でも、聞く能力同様「全くできない」(9.5%)、「あまりできない」(4.3%)という子どもたちもおり、「ポルトガル語を聞く能力」と同様の傾向を示している。

10-7. 同居子・ポルトガル語を読む能力（問 36）



ポルトガル語を読む能力になると、「全くできない」(38.9%)と「ほぼ完全にできる」(33.9%)の二極化がより顕著になる。「ほぼ完全にできる」(33.9%)と「わりとできる」(11.9%)を合わせると45.8%、「全くできない」(38.9%)と「あまりできない」(6.0%)を合わせて44.9%と、ほぼ半分に分かれる。

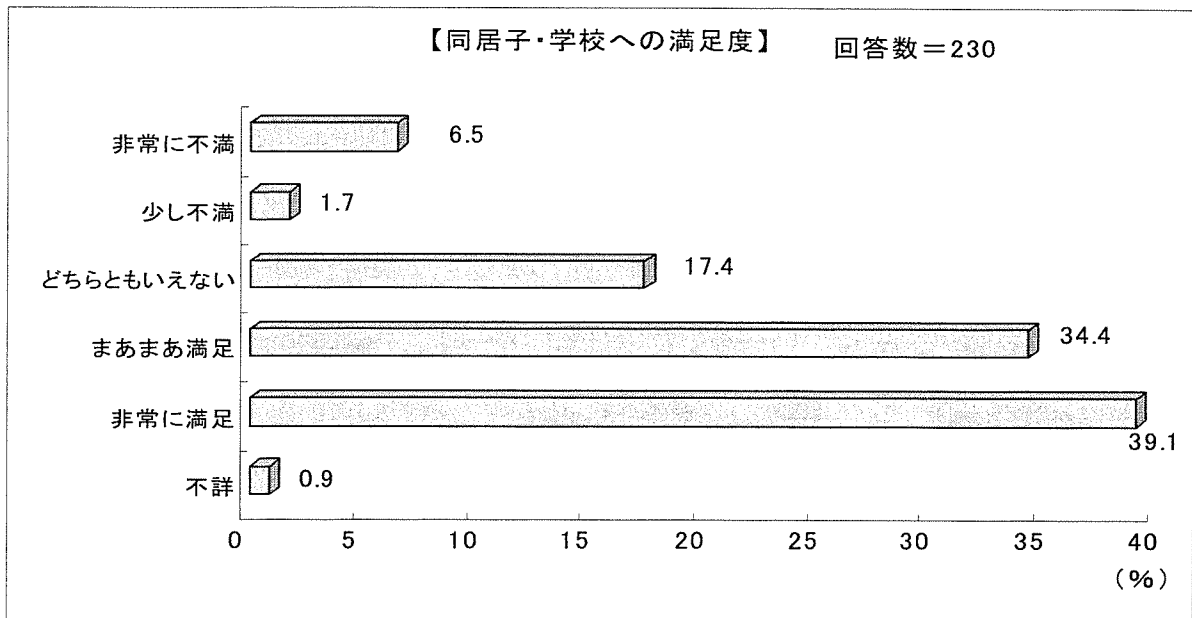
10-8. 同居子・ポルトガル語を書く能力（問 36）



ポルトガル語を書く能力は、ポルトガル語を読む能力とほぼ同様の分布を示している。ポルトガル語の読み・書きに関しては、ブラジル生まれの子どもと日本生まれのブラジル人の子ども間で大きな差が出てきていると思われる。

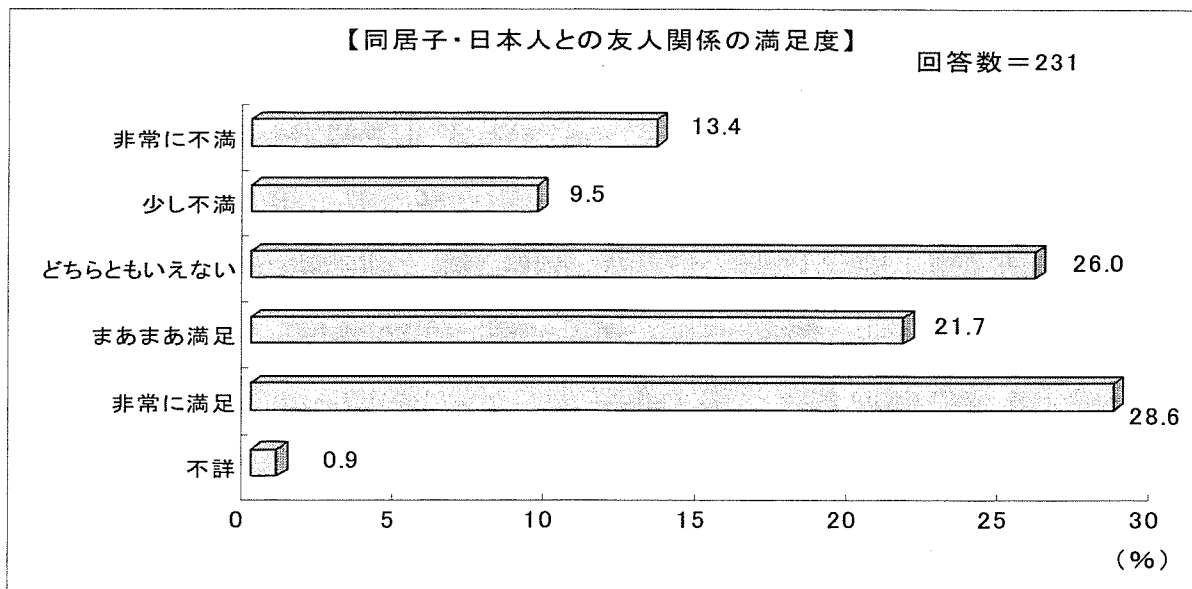
## 第 11 章 子どもの日本での生活に対する満足度

### 11-1. 同居子・学校への満足度（問 37）



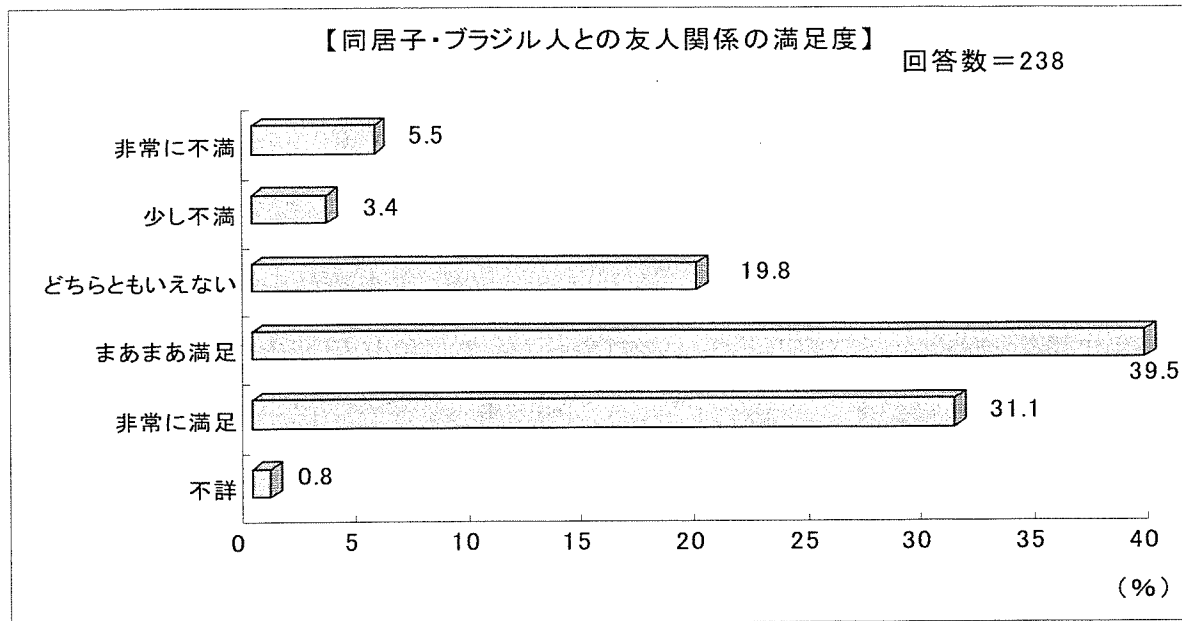
子どもの学校への満足度は、概ね高く、「非常に満足」(39.1%)と「まあまあ満足」(34.4%)を合わせると7割を超える。反対に学校に対して不満がある子どもの割合は、「非常に不満」(6.5%)と「少し不満」(1.7%)を合わせても1割に達せず、学校に対する満足度は高いと言える。

### 11-2. 同居子・日本人との友人関係の満足度（問 37）



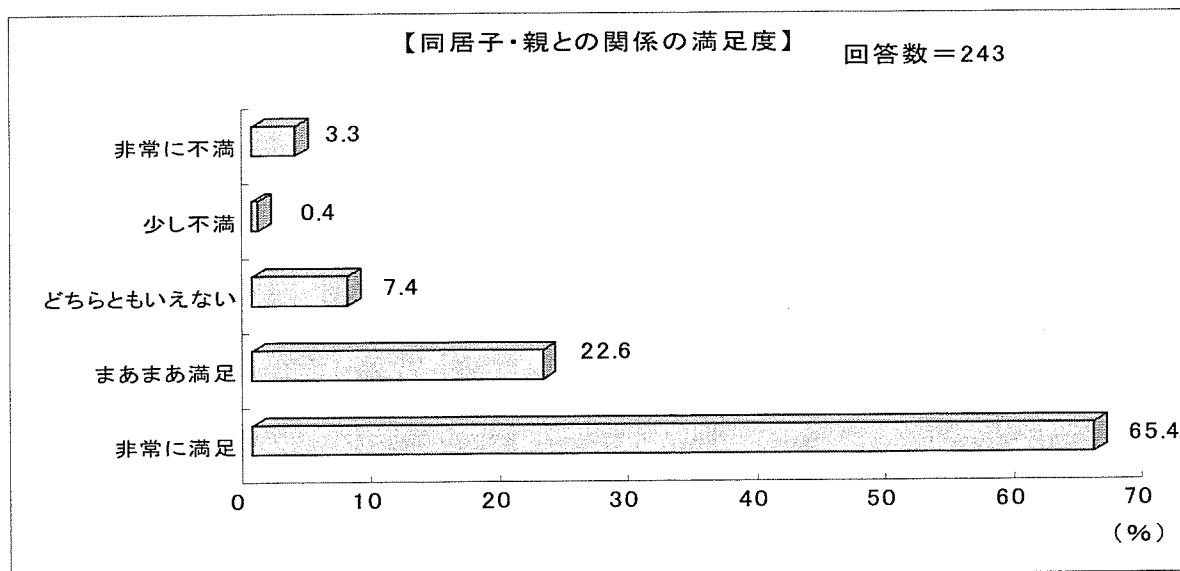
日本人との友人関係に関しては、「非常に満足」が28.6%と最も高くなっているが、「どちらともいえない」が26.0%と続いている。「非常に満足」(28.6%)と「まあまあ満足」(21.7%)を合わせて50.3%に達するが、残りは、「非常に不満」(13.4%)、「少し不満」(9.5%)、「どちらともいえない」(26.0%)であり、日本人との友人関係の複雑さを表している。

11-3. 同居子・ブラジル人との友人関係（問 37）



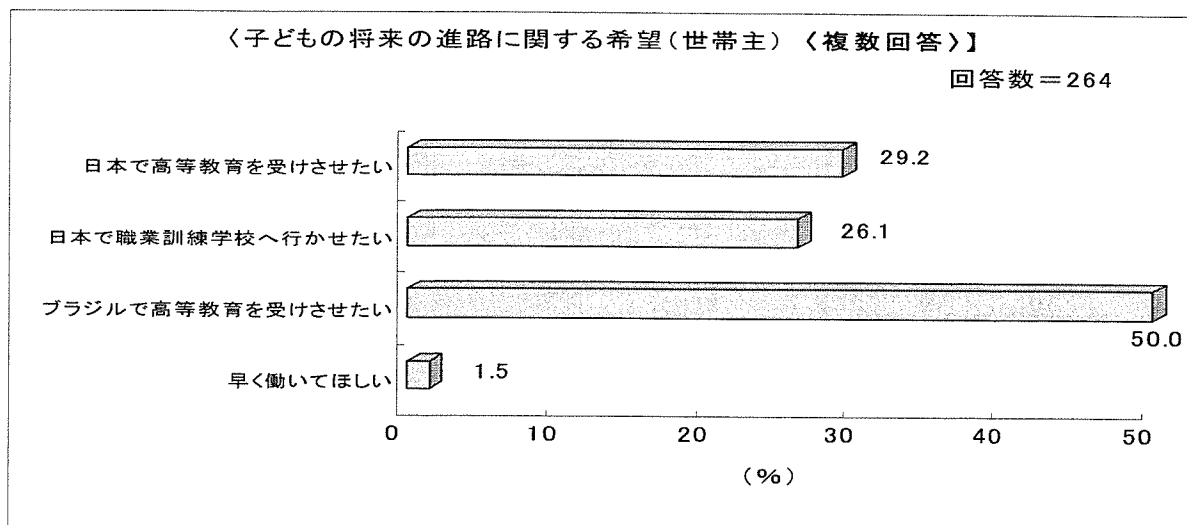
友人関係もブラジル人との関係となると、満足度は高くなる。「まあまあ満足」が 39.5%で最も高く、続いて「非常に満足」の 31.1%と合わせると、7割を超える。ブラジル人との友人関係に不満を抱く子どもの割合は、「非常に不満」が 5.5%、「少し不満」が 3.4%と、日本人との友人関係に比べて不満を持つ子供の割合が低い。

11-4. 同居子・親との関係（問 37）



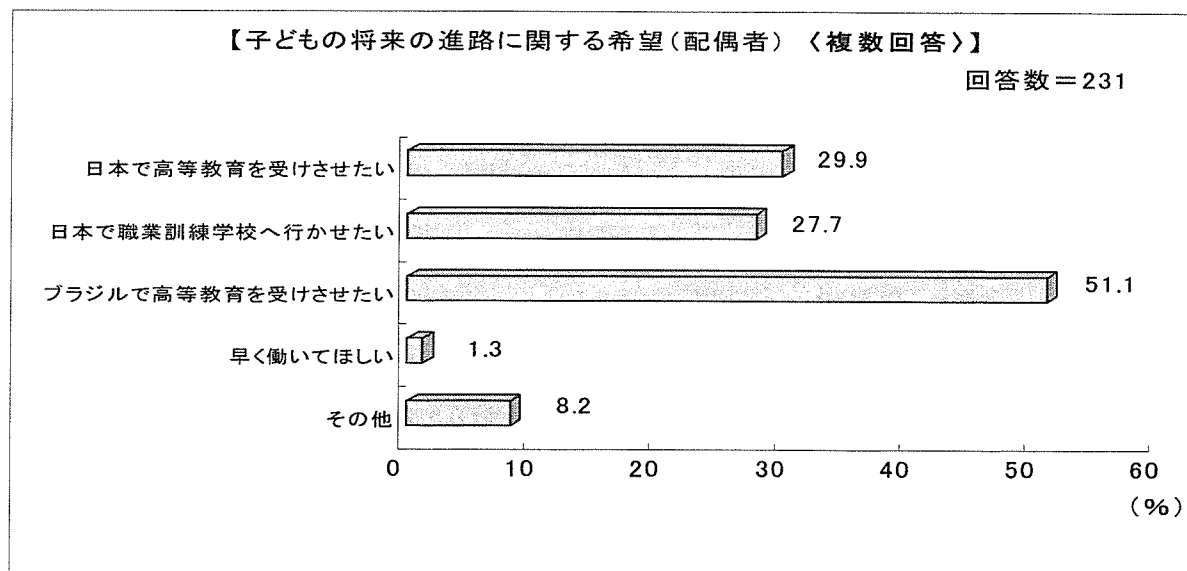
子どもの年齢が比較的小さいこともあるかもしれないが、親との関係に関しては満足度が高い。「非常に満足」と回答した者が 65.4%、「まあまあ満足」が 22.6%で、合わせて9割弱が満足していると回答している。

### 11-5. 子どもの将来の進路に関する希望（世帯主）（問 38）



世帯主に聞いた子どもの将来の進路に関する希望では、半数が「ブラジルで高等教育を受けさせたい」と回答した。「日本で高等教育を受けさせたい」（29.2%）、「日本で職業訓練学校へ行かせたい」（26.1%）と、合わせて55.3%が、子どもが日本で進学することを希望している。ここでも、ブラジル帰国志望タイプと、日本滞在志望タイプと二極化していることが見て取れる。

### 11-6. 子どもの将来の進路に関する希望（配偶者）（問 38）



配偶者に聞いた子どもの将来の進路に関する希望も、概ね世帯主と一致している。日本であれブラジルであれ、ほとんどの親は、子どもには職業訓練も含め、より上のレベルの教育を受けさせたいと考えている。配偶者の場合、世帯主よりも日本で教育を受けさせたいと考える者の割合が高い。



## 第12章 自由記述

2005年に実施した「磐田市外国人市民実態調査」においては、「1. 行政への意見・要望」、「2. 日本人と外国人が互いに生活しやすくなるために」、そして「3. 家族と子どもの将来について」の3つの自由記述欄を設けた。実際に記入された内容については、別紙の表を参照されたい。最も記入が多かったのは、「2. 日本人と外国人が互いに生活しやすくなるために」の130件、次が「1. 行政への意見・要望」の115件、そして、最後が「3. 家族と子どもの将来について」の93件であった。

### 1. 行政への意見・要望

「1. 行政への意見・要望」で特に多かったのは、国民健康保険への加入、通訳（特に病院において）の設置、ポルトガル語で書かれた情報、ブラジル学校の学費、ポルトガル語教室、日本語教室の設置、市営住宅入居の要望であった。国民健康保険への加入の要望は特に強く、社会保険に加入させてもらえないことから、国民健康保険への加入を望んでいるケースが多い。特に子どもや、家族に病人がいる場合は深刻である。労働条件や労働基準法がきちんと守られているか、工場や事業者をもっと厳しく監督してほしいとの要望も寄せられている。

通訳設置の要望も非常に強い。病院や市役所、警察などの公的な機関への通訳の設置を義務化して欲しいとの要望が寄せられている。また、言葉の問題に関しては、ポルトガル語で書かれた市役所の書類の様式、予防接種の用紙、郵便局で用いる書類、日本の法律・規則をまとめたパンフレットや小冊子の普及が望まれている。また、来日したばかりのブラジル人を対象として、週末に開かれる日本語教室の開設も多く望まれている。市営住宅入居への要望も非常に多いが、入居するのはかなり困難な様子である。一つには、市営住宅入居に関わる書類が全て日本語であることが関係していると思われる。

子どもを対象とした事項では、ブラジル人学校の学費の高さに対して、市から何らかの補助を出して欲しいとの要望も多くみられた。ブラジル人学校の学費は、月に5万円以上するため、家計の大きな負担になっていることがうかがえる。逆に日本で生まれてポルトガル語がおぼつかない子ども達を対象としたポルトガル語教室の開設の要望もみられた。また、ブラジルの中等教育を中退して日本に来日し、日本で大学・専門学校に進学を希望する子どもを対象とする手続き、指導、日本語の教育についても要望があげられている。

### 2. 日本人と外国人の共存

「2. 日本人と外国人が互いに生活しやすくなるために」は、最も記入件数の多かった項目である。最も多く見られたのは、「相互理解」や「お互いに尊重しあう」などの

比較的抽象的な一般論であった。また、「日本人がブラジル人に対する偏見をなくすべき」といったような日本人のブラジル人に対する態度を改めるよう提案する記入や、逆に「ブラジル人は日本に住んでいるのだから、日本のルールを守るべき」といったブラジル人自身の日本での生活態度の改善を提案する記入もあった。また、「一部のブラジル人が悪いことをするからといって、全てのブラジル人を犯罪者扱いしないでほしい」という旨の記述も比較的多くみられた。

より具体的な相互共存のための提案として、最も多く挙げられたのは「イベント」や「祭り」である。イベントとしては、スポーツを挙げたものが多かった。また、お互いの文化を紹介するような祭りの提案も多く挙げられた。しかし、実際には、「ブラジル人のイベントに日本人が参加することが少ない」という理由や「イベントに関する情報が入手できない」、「イベントに参加する時間が無い」などの理由で、実現は難しいかもしれない。

### 3. 家族と子どもの将来について

「3. 家族と子どもの将来について」に関しては、93 件の記入があった。家族・子どもの将来の幸せを願うのは、どこの国の人間も同じである。心配事としては、このまま日本で育って、ブラジルのことを忘れてしまうのではないか、このまま日本で生活しても日本人から差別を受けるのではないか、といったことが挙げられている。子どもが日本で育つことで良い点としては、治安が良いため、子どもを安心して育てられること、経済的な安定をあげている者が多い。単身で来日していると思われる者の記述も、ブラジルでの家族・子どもの幸せ・教育を願って日本に働きに来ていることがうかがわれる。

自由回答1		自由回答2		自由回答3	
行政への意見・要望		日本人と外国人の共存		家族と子どもの将来について	
1	ゴミの回収日を教えてほしい。例えば第1、2土曜日という具合にカレンダーがなくなるように	1	双方の文化を紹介しあう	1	生活レベルを向上するための機会をもっと持ってもらいたいです
2	外国人のための国民健康保険を磐田市で許可してほしい	2	日本人とブラジル人が相互に理解を深める	2	子供の日本に連れてきて慣れさせる
3	情報がほしい	3	もっと交流を深めて共に生活していく	3	お金を沢山稼いでブラジルに帰ってきて欲しい
4	保険に入らせて欲しい	4	日本人のブラジル人に対する偏見をなくすように思います	4	私がブラジルにいる子供を連れてきたら、自分ブラジルに戻らないです
5	全ての公的な機関に通訳を置くことを義務付けてほしい	5	人種差別を少なくする	5	もう少しよきこやかに成長して欲しいです
6	日本に来てまだ日が経っていないので、あまり質問に答えることが出来ません	6	日本語を教えてくれる機会が欲しい	6	もっと安心して子供を育てやすい生活になるように考えて欲しい
7	もっと通訳を置いて、日本語の情報をポルトガル語で表示してほしい	7	日本人が外国人に対して持っている偏見を捨てるとういと思います	7	より多く交流をもつことで、すこやかで親愛になるとよいと思います
8	竜洋町は通訳者がいないです	8	日本語や日本の様式がわからない(日常生活に支障があるくらい)ブラジル人は戻るように命じる	8	私たちの子供がよい教育を受けられることを望みます
9	病院に通訳を置くことを義務化して欲しい	9	もっと地域で共にレジャーを楽しむ	9	親や近い血縁たちと(育った環境の違いから)差異が生じてしまうことが心配です
10	人種による差別をしないですべてのブラジル人に健康保険に加入させてほしいです	10	コミュニケーションが重要だと思いますが、私たち外国人の大多数は日本語が話せません	10	娘の将来がよくなるように考えてほしい
11	言うことなし	11	外国人に対してもっと寛大に理解して、差別を少なくする	11	幸せになってほしい
12	ポルトガル語で書かれた情報をもっと配布する	12	より多くのコミュニケーションをとり、お互いの慣習や伝統を理解しあうことが大事だと思います	12	今のところ(子供の)生活や人生で重要になることは何かははっきりとはわかりません

自由回答1		自由回答2		自由回答3	
行政への意見・要望		日本人と外国人の共存		家族と子どもの将来について	
13	転入できる学校が少ない	13	もっとお互いに広い心を持ち、より互いに認め合うことが大事だと思います	13	よりよい未来、よりよい国にするために、通学して能力をつけたり、雇用や健康保険を持つことができることを期待します
14	アンケートの結果情報が欲しい。子供はいません。	14	ブラジル人の日本語能力を向上させるために援助する	14	幸せになってほしい
15	もっと簡単なアンケートにしてほしい	15	ごみの回収等の情報をもっと明確に知らせてほしい	15	私たちの子やブラジルの家族に良い未来がくるように考えています
16	どうして外国人は国民保険に加入することができないのでしょうか	16	日本の慣習を理解して、日本の規則を尊重する	16	できるだけよくなってもらいたい
17	外国人は様々な面で困難に直面しています	17	故国が異なる人たちも平等に暮らせるように考えて、外国人の生活環境を改善してほしい	17	よくなってほしい
18	私たちが外国人を寛容に受け入れてくれる意志が不足しているように思います	18	偏見をなくす	18	日本で育つことで差別により乱暴な子に育つことなく、穏やかな優しい人に育って欲しい
19	日本人と外国人との労働条件の差について考えて欲しい。特に工場での職位、休暇、保険、ボーナスや昇給を。	19	外国人と日本人の間の違いを乗り越えるために、コミュニケーションをもっとよ	19	外国人が勉強していくための奨学金のよ
20	(日本で生活する上で)疑問や不安がなくなるとまで、オリエンテーションを地域でやってほしい	20	相互理解	20	ブラジルに帰ってあげたいと思います
21	青年期の子供たちがスポーツ大会に参加できる場がない。ブラジル人学校は日本の学校に比べて特別な学校のためあまり、スポーツ大会の場が持てない	21	イベントを行う	21	企業の使用者たちは子供たちが安定して働けるような未来にするために、知識を取得する機会を作るように努力するべきだと思
22	ブラジル人も国民保険に自由に入らせて欲しいというのは、企業では全ての外国人に健康保険を供与するとは限らないからです	22	スポーツのイベントを行う	22	たった一人の子供でするので離れて暮らしたくありません。子供のためにもっといい暮らしをさせてあげたい。